

平成 15 年度厚生労働科学研究費補助金
がん予防等健康科学総合研究事業

小中学校における
喫煙防止教育教材の標準化と評価

平成 15 年度研究報告書
主任研究者 簗輪眞澄

平成 16 (2004) 年 3 月

厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業
小中学校における喫煙防止教育教材の標準化と評価
平成 15 年度研究報告書

目 次

I. 総括研究報告

小中学校における喫煙防止教育の標準化とその評価
 簗輪真澄 [2]

II. 分担研究報告

1. 小学校における喫煙防止教育教材の評価；中学校用CD-ROM教材「肺はきれいな空気が大すき」と高学年用教材「タバコって何？」
 鈴木明・簗輪真澄・仲野暢子・杉江拓也 [6]
 2. 未成年者に対する教育的効果が大きいと考えられるたばこ使用の口腔への影響
 埴岡隆 [24]
 3. 小学校用喫煙防止教育用 CD-ROM 教材「肺はきれいな空気がだいすき」および「タバコって何？」の作成；教室でそのまま使える実用性を第一に一知識を得る欲求の開発，判断する能力・意見・態度の形成—
 仲野暢子 [30]
- III. 研究成果の刊行に関する一覧表 [63]

平成 16 年 3 月 31 日

発行者 簗輪真澄
 国立保健医療学院疫学部
 3510197 埼玉県和光市南 2 丁目 3 番 6 号

厚生科学補助金（健康科学総合研究事業）
総括研究報告書

小中学校における喫煙防止教育の標準化とその評価

主任研究者 兼輪眞澄 国立公衆衛生院疫学部長

研究要旨

日本における喫煙防止教育の流れを概観し、喫煙対策や健康教育に関して系統的な研究が行なわれている、オーストラリア、米国およびカナダを訪問し、研究者に面接するとともに関連資料の収集を行ない、日本における喫煙防止教材作成方針決定の参考にした。その結果、CD-ROMを使うことによって得られる、双方向の授業の可能性を追求することとした。この分野でのCD教材は、未開発であり、実験的な意味を持つと思われる。

第1年度には、喫煙防止教育用CD-ROM教材「タバコとあなた」（中学生用）（計76図）が作成された。第2年度にはその教材教育に適用し、効果の評価を行った。その結果、この教材による授業後にタバコには対する種々の認識が望ましい方向に変化し、授業効果が確認された。また、現場の養護教諭グループの協力を得て、教室での生徒の理解度、参加度、反応を観察し、試行を繰り返しながら、中学年（3・4年生）用「肺はきれいな空気がだいすき」と高学年（5・6年生）用「タバコって何？」のCD-ROM2枚の試作品を完成させた。これらの過程において、中学生用教材の評価結果や、口腔衛生に及ぼす影響の検討結果をも取り入れた。

今年度は、小学校中学年用喫煙防止教育用教材「肺はきれいな空気が大すき」および高学年用教材「タバコって何？」の評価が行われ、これらの教材を使った授業の後、たばこに対する態度（大人の喫煙に対する意識、未成年者の喫煙に対する意識、喫煙勧誘に対する態度、友人の喫煙に対する態度、および自分の将来の喫煙に関する態度）が好ましい方向に変化することが確認された。

口腔はたばこの煙が最初に通過する臓器であり、これまで、口腔の健康への喫煙の悪影響についての科学的根拠が数多く蓄積されてきた。これらの健康影響のうちいずれが未成年者に対する喫煙防止教育に効果的に取り入れうるかを検討した。このことから、小・中学生の喫煙防止教育に「口腔の健康への喫煙の悪影響」を用いることの有用性が示唆された。次の段階として、具体的にどのような方法で喫煙の口腔の健康影響を提示できるか、そして、口腔以外の健康への影響の提示方法とどのような形で関連付けができるかを検討し、具体的な表現の提案を行った。その結果が22枚のスライドにまとめられた。

以上のことを考慮のうえ、平成13年度に開発された中学校用CD教材「タバコとあなた」、14年度に開発された小学校中学校用CD-ROM教材「肺はきれいな空気が大すき」と高学年用教材「タバコって何？」の改訂を行って完成版とした。

分担研究者

鈴木明 聖学院大学人文学部児童学科健康管理学教授
埴岡隆 福岡歯科大学社会歯学部口腔保健学講座口腔健康科学分野教授
仲野暢子 禁煙教育をすすめる会・喫煙予防教育代表

研究協力者

杉江拓也 国立保健医療学院疫学部

A. 研究目的

未成年者喫煙禁止法施行から100年余を経たが、青少年を取り巻く環境は、宣伝広告、自動販売機などによる喫煙奨励の度合いを強めている。一方青少年のロールモデルとしての日本の成人社会は、たばこに関する健康情報が行政、業界、メディアの力学関係によって、一般の人々に届き

にくく、また依存性の所為で喫煙者に受け入れにくい状況が続いている。したがって日本社会の喫煙に対する許容度は、諸外国に比して大きいといえよう。未成年者の喫煙に対する親を含めた社会全般の態度も、無関心、無力感により消極的に流れ、未成年者の喫煙開始年齢は低下し、また未成年者の喫煙が日常化・公然化が広がっている。

文部省は1986年以降、小・中・高等学校と順次「喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導の手引き」を作成し¹⁾、1993年の学習指導要領改訂において、健康教育の一環として「喫煙・飲酒・薬物」をとり入れた。しかしカリキュラムの中に時間的な余裕がなく、また保健担当の教師ですら、これらの専門教育を受けてきていないため、指導者の育成が不十分であり、適切な教材も情報の普及も不足している。

喫煙予防教育というまでもなく健康教育の一環であるが、健康教育はその児童・生徒の生きる意欲と気力に大きく関係している。学校の現状は年に一度外部の講師を招いて講演を聴き、その後のフォローが難しい学校も多い一方、喫煙と同時に荒れた学校生活を、教職員と保護者・生徒が協力して立て直す学校も少なくない。健康教育は日常生活に直結した部分が大きく、また精神的な支柱をも必要としている。その意味では、学校の教室で教師と生徒、生徒同士の相互作用を生かし、日常的に喫煙予防教育に利用できるものを求める需要は大きい。

教員が現在行われている公的な現職教育に参加できる機会のごく限られており、民間団体による自主的な研修会の中には、20年来続いているものもあるが²⁾、やはり参加できる人数は全体から見ると僅かである。平成11・12年頃から「健康日本21」地方計画の実施が始まり、衛生局・保健所などが教育委員会・学校と連携して防煙教育のサポートに入っている例も所々に見られる³⁾。この方面に専門知識を持っている医師・薬剤師が活躍している例も、徐々に生まれている。しかし標準化された教材がほとんどなく、あっても、内容と要求される時間数の多さに、活用できないでいる現状である。

われわれはここに最低1時限の授業の中に、ミニマムな知識と考え方を入れ込み、事前、事後の課題または延長授業によって、さらに展開がのぞめる教材を試作することとした。実際に使用し、調査することによって評価と改良を重ねる形の教材作成を中心にした研究である。教師と自発的に興味を持って調べたいという生徒のための資料を添付し、今後もインターネットを使って補給できる形をとりたい。教材の形態はCD-ROMに決定した。

2年目には、□1年目に開発された教材を実際に教室で使って、その効果を評価すること、□喫煙の口腔衛生に及ぼす影響が子供の注意を引くことに着目し、どのような情報が喫煙防止に有効かを検討すること、□それらを考慮して小学校中学校用CD-ROM教材「肺はきれいな空気が大すき」と高学年用教材「タバコって何？」を開発した。

3年目には、小学校教員の協力を得て、これら2つの教材を教室で実際に使用し、教師の使い勝手を調査すると同時に、□たばこに対する態度（大人の喫煙に対する意識、未成年者の喫煙に対する意識、喫煙勧誘に対する態度、友人の喫煙に対する態度、および自分の将来の喫煙に関する態度）を評価し、□口腔保健の立場から効果的な喫煙防止教育に役立つ映像を開発してCD-ROM開発の山行に資し、□それらを踏まえてCD-ROM教材の改訂を行って完成版を作成した。

B. 喫煙防止教育用CD-ROMの効果の評価

平成14年度に行われた中学校用CD-ROM教材の評価に準じて、小学校中学年用喫煙防止教育用教材「肺はきれいな空気が大すき」の媒体（CD-ROM）と操作マニュアル、および高学年用教材「タバコって何」の媒体（CD-ROM）およびマニュアルによる介入教育効果を確認し、あわせて効果のあった生徒および教師の特性をあきらかにし、この教材の改善を図ることを目的とした。

介入：この研究における介入は喫煙防止教育であり、対象者たちに平成14年度に開発された中学年用教材「肺はきれいな空気が大すき」の媒体（CD-ROM）と操作マニュアル、および高学年用教材「タバコって何」の媒体およびマニュアルを用いた介入（喫煙防止教育）に基づく、約1校時の授業を行った。

対象者：対象者は、分担研究者である中野、鈴木および埴岡が関係している小学校における中学年（3-4年生）および高学年（5-6年生）とした。

結果：その結果、このように授業後にはタバコに対する種々の意識が高まり、授業効果があると考えられた。たとえば、「大人の吸うタバコの印象」についての意識の変化である。中学年・高学年とも授業後に「よくない」という者が増え、90%を越えている。授業前は大人の

喫煙にも肯定的であったが、授業後は「たとえ大人でも喫煙はよくない」と意識が変化しているがとくに高学年に顕著である。また、「友人からの喫煙の勧め」に関しては、「できると思う」が、授業後に増えた。「友人に対して注意ができるか」という質問に対しても同じような傾向にあるが高学年に顕著である。「将来の自分自身の喫煙」に関しては、授業前に「吸う」者が授業後にわずかではあるが減少し、授業前「わからない」と答えていた者が、授業後に「吸わない」と変化している者が多く見られた。

このようにこの CD-ROM を用いた教育では、授業後にタバコに対する種々の認識が望ましい方向に変化し、授業効果が確認された。これが実際の喫煙防止につながるか否かは次の課題である。

C. 未成年者に対する教育的効果が大きいと考えられるたばこ使用の口腔への影響

小児に対するたばこ使用の影響は、以下のような点で喫煙防止教育に取り上げることができると考えられる：(1) 自身への悪影響を直接自分の目で見るができるし、専門家や教師から見せることができる、(2) 乳歯の脱落、永久歯の萌出を体験して間もない時期であり、口腔に関心が高い時期である、(3) 口臭・着色の身近な症状、歯周病・歯の喪失などの主要歯科疾患、生命の危険が及ぶ口腔がんなど多様であり、口臭・着色は子供が関心を寄せやすい、□歯科患者の年齢層は、禁煙の効果が高いとされる若年者も多く、子供も多く受診する。カナダにおけるタバコ箱画像警告表示が採用され、効果的な画像のなかには、喫煙者の口腔、歯肉メラニン色素沈着、歯周病などがあげられている。これらのことは、喫煙の口腔への影響を、子どもの防煙の観点から用いることにより、以下に示す重要な意義を提示する根拠となる：(1) 見えることから教師のアプローチが簡単である、(2) 口腔は身近な臓器で学童の関心が高い、(3) 受動喫煙との関連性から汚れた空気(環境)の影響としてアプローチができる、(4) 歯科健診を毎年定期受診するので、口腔への関心が高まる時期が定期的にある。これらのことを効果的に示すためのスライドが 22 枚にまとめられ、CD-ROM 作成の参考にされた。

D. 小学校用喫煙防止教育用 CD-ROM 教材「肺はきれいな空気がだいすき」および「タバコって何？」の完成；教室でそのまま使える実用性を第一に—知識を得る欲求の開発、判断する能力・意見・態度の形成—

喫煙防止教育用 CD-ROM 開発にあたっては、単なる知識の提供だけでなく、知識を得る欲求の開発、判断する能力・意見・態度の形成を目指すものとした。そのため当教材の開発について、次の 3 点を重視した。

- (1) 好奇心は尊重するが、それだけに終わらず、知りたい項目を整理し、科学的知識を基にした、客観的観察、知識の出所を明らかにして、できるだけ検証可能な方向を考えた。
- (2) 判断するには、一箇所または一方向からの知識では、社会的、心理的現象を受け止めることは危険がある。何が目的で判断をするかを大きく捉える必要もある。
- (3) 双方向のコミュニケーションによる、よりよいものを求める、向上的な意見の形成、また、単に意見で終わらないよう、その後のお互いのフォローが必要なことを想起しなければならない。

これらを前提として、次のような検討を行った。

- (1) 教材を使う場合は、一義的に学校を想定した。
- (2) 具体的な教材作成にあたって、CD と解説書のセットの形を選んだのは、□集団で十分討論し、意見を形成し、発表・伝達することを目的とし、(1) 進行教師の手にゆだねることにより、その教室のニーズに合わせることができ、(2) 個人やグループで持ち帰ることが簡単で、(3) シナリオや解説を加工することが可能だからである。
- (3) CD-ROM 教材のマイナス面としては、機器のそろい方に学校差が大きいことがあげられた。
- (4) 改定にあたって留意したこととしては；(1) 解説の音声を入れた、(2) 要点ではキューが必要、(3) アニメ機能を増した、(4) 資料はできるだけアップデートなものにした、(5) ナレーションを入れた。

以上のことを考慮のうえ、平成 13 年度に開発された中学校用 CD 教材「タバコとあなた」、

14年度に開発された小学校中学校用 CD-ROM 教材「肺はきれいな空気が大すき」と高学年用教材「タバコって何？」の改訂を行って完成版とした。

今後の問題点としては、このような教材開発とともに、(1) 喫煙防止教育についての系統的な教育の必要性、(2) 現任教師への情報提供の必要性などが考えられた。

E. 結論

本年度はこの研究最終年度の3年目として、(1) 小学校用喫煙防止教育用CD-ROM教材「肺はきれいな空気が大すき」および「タバコって何？」の評価、(2) 口腔衛生上の知見の取り込み、および(3) 中学生用CD-ROM「タバコとあなた」の手直し、(4) 小学校中学年用と高学年用の評価と手直しを行って、3点のCD-ROM教材およびそれらのシナリオを完成した。

F. 参考資料

- 1) 学校保健会 新訂「喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導の手引き」 小・中・高等学校編1996-1997年
- 2) 全国禁煙教育研修会 <http://homepage1.nifty.com/kin-en/kai.htm>
- 3) 東京都衛生局・東京都教育委員会 「たばこと子ども－指導者研修会」 1999, 2000, 2001年

G. 健康危機情報

健康危機を回避する情報が含まれている。

H. 研究発表

1. 論文発表
なし。
2. 学会発表
なし。

I. 知的財産の出願・登録状況

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
なし。

厚生科学補助金（健康科学総合研究事業）
分担研究報告書

小学校における喫煙防止教育教材の評価
中学校用CD-ROM教材「肺はきれいな空気が大すき」と高学年用教材「タバコって何？」

分担研究者	鈴木明	聖学院大学人文学部児童学科健康管理学教授
	仲野暢子	禁煙教育をすすめる会
主任研究者	巽輪眞澄	国立保健医療科学院疫学部
研究協力者	杉江拓也	国立保健医療科学院疫学部

研究要旨

小学校中学年用喫煙防止教育用教材「肺はきれいな空気が大すき」の媒体（CD-ROM）と操作マニュアル、および高学年用教材「タバコって何」の媒体（CD-ROM）およびマニュアルによる介入教育効果を確認し、あわせて効果のあった生徒および教師の特性をあきらかにし、この教材の改善を図ることを目的とした。

介入：この研究における介入は喫煙防止教育であり、対象者たちに平成14年度に開発された中学年用教材「肺はきれいな空気が大すき」の媒体（CD-ROM）と操作マニュアル、および高学年用教材「タバコって何」の媒体およびマニュアルを用いた介入（喫煙防止教育）に基づく、約1校時の授業を行った。

対象者：対象者は、分担研究者である中野、鈴木および埴岡が関係している小学校における中学年（3-4年生）および高学年（5-6年生）とした。

結果：その結果、このように授業後にはタバコに対する種々の意識が高まり、授業効果があると考えられた。たとえば、「大人の吸うタバコの印象」についての意識の変化である。中学年・高学年とも授業後に「よくない」という者が増え、90%を越えている。授業前は大人の喫煙にも肯定的であったが、授業後は「たとえ大人でも喫煙はよくない」と意識が変化しているがとくに高学年に顕著である。また、「友人からの喫煙の勧め」に関しては、「できると思う」が、授業後に増えた。「友人に対して注意ができるか」という質問に対しても同じような傾向にあるが高学年に顕著である。「将来の自分自身の喫煙」に関しては、授業前に「吸う」者が授業後にわずかではあるが減少し、授業前「わからない」と答えていた者が、授業後に「吸わない」と変化している者が多く見られた。

A. 目的

健康日本21においては、2010年までに未成年者の喫煙をなくすことが目標として掲げられている。小学校高学年用には、米国のKnow Your Bodyに準拠した「喫煙防止プログラム」が開発されており（川畑徹朗ら、癌の臨床 1993;39:451-462）、その効果が示されている（西岡伸紀他、日本公衆衛生雑誌 1996;43:434-445）。しかし、この方法では1学年に3校時の喫煙防止教育を必要としているため、多くの学校ではそれだけの時間を割けないというのが現状である。また、日本語での中学校用プログラムでその効果の評価されたものはない。そこでわれわれは、一定の効果が確認されている海外での喫煙防止プログラムのいくつかを参考にして、日本の現状や文化を踏まえて、小中学校の担任教師によって1学年に1校時で行える標準的プログラム（教材と教師用手引き）を開発し、その効果を評価することとした。また、それらの教材を使うに当たって特別な訓練を必要としないものが開発された。

まず、平成13年度には中学生用の教材「タバコとあなた」（CD-ROM）とそのマニュアルを作成し、平成14年度に中学校で使用して評価を行い、その結果に基づいて改訂中である。

平成14年度には、小学校中学年用教材「肺はきれいな空気が大すき」の媒体と操作マニュアル（平成14年度報告書）、および高学年用教材「タバコって何」の媒体およびマニュアル（平成14年度報告書）が開発された。本年度はこれらの教材の効果を確認し、あわせて効果のあった生徒の特性をあきらかにし、この教材の改善を図る予定である。

これらの教材の特徴は、□CD-ROMであること、□説明は原則として教師の肉声で行うこと、□必要があれば追加情報を表示することができることが特徴であり、□開発には教師グループの協力を得ていて小中学生に理解しやすいものされている。

本研究においては、小学校において、中学年用教材「肺はきれいな空気が大すき」の媒体（CD-ROM）と操作マニュアル、および高学年用教材「タバコって何」の媒体およびマニュアル（別添4）を用いた介入（喫煙防止教育）を行い、□その前後における生徒の変化を聞き取るとともに、□この効果と授業を行った教師の特性との関連性をあきらかにし、□児童に強い印象を与えた画像はどれかを明らかにすることによって、この教材の改善を図ることを目的とした。

B. 対象と方法

1. 対象者

対象者は、分担研究者である中野、鈴木および埴岡が関係している小学校（約30校）における中学年（3-4年生）および高学年（5-6年生）、男女それぞれ500人、計1000人を目標とした。これらの児童には全員に後に述べる介入（喫煙防止教育）を行い、必要な情報を収集した。

2. 介入

この研究における介入は喫煙防止教育であり、対策者たちに平成14年度に開発された中学年用教材「肺はきれいな空気が大すき」の媒体（CD-ROM）と操作マニュアル、および高学年用教材「タバコって何」の媒体およびマニュアル（以上は平成14年度報告書に添付）を用いた介入（喫煙防止教育）に基づく、約1校時の授業を行った。対照群は置かず、主として授業の前後におけるタバコおよび喫煙に対する児童の態度の変化によって効果を評価した。これらの教材は教師たちが参加して作られ、参加していない教師にも示して使い方を説明する必要がないように改善が図られているので、介入のための訓練は行わなかった（これもこの教材開発の目標の一つ）（添付1）。

3. 情報収集および解析

必要な情報は、以下の通り児童からの情報（中学年用は添付2、高学年用は添付3）とともに、授業を行った教師からも収集した（添付4）。児童からの調査票は授業前後のものが1枚の紙の両面に印刷されている。また、教師用調査票（封筒入り）は、児童用調査票（封筒入り）の束に重ねられて、1束として国立保健医療科学院に送られた。これらの調査票はすべて無記名とした。調査の分析にはSPSSを用い、Wilcoxonの順位検定を用いた。

4. 研究対象者の保護

生徒を対象とする調査に関しては、次の理由によりインフォームドコンセントを取ることとは想定していなかった：(1) 全く無記名で行なわれるので、対象者が危険や不利益をこうむったり、その人権が侵害される恐れはない；(2) それでも協力したくない生徒は未記入のまま封筒に入れて返すこともできることを告げた。

C. 調査結果

1. 調査数等

期間は2003年9月から12月にかけて、全国の小学校の生徒を対象に、授業の前後に無記名の質問紙法でおこなった。有効回答720名で、内訳は表1のとおりである。

表1 対象人数 (人)

学年	3年	4年	5年	6年	合計
男子	38	55	75	201	369
女子	25	53	70	203	351
合計	63	108	145	404	720

2. タバコの害に関する情報

タバコの害についてこれまで「聞いたことがある」という者は表2に示した。中学年で69.3%、高学年で88.1%いる。学年があがるにつれて「聞いたことがある」者が増えてきている。その情報源は親からが多いが、高学年は先生の割合も増えているこ

とから、タバコの害に関する授業もこのあたりで行なわれていると推測できる(表3)。

タバコへの興味はあまり高くはないが(表4)、「喫煙経験有り」のグループは、中学年 23.1%、高学年 28.6%とかなり高い数値を示している。

表2 タバコの害について聞いたことがあるか (%)

	ある	ない	n
中学年	69.3	30.7	179
高学年	88.1	11.9	562

表3 情報源

	親	先生	その他	n
中学年	71.7	9.4	18.9	138
高学年	47.7	28.7	32.9	495

表4 タバコへの興味 (人)

(中学年)				(高学年)			
	ある	ない	n		ある	ない	n
3年	14.1	85.9	71	5年	13.6	86.4	147
4年	3.7	96.3	108	6年	9.0	91.0	413
男子	6.5	93.5	93	男子	15.6	84.4	275
女子	10.3	89.7	78	女子	5.1	94.9	272
家庭内有	6.6	93.4	121	家庭内有	12.2	87.8	368
家庭内無	10.3	89.7	58	家庭内無	5.8	94.2	191
喫煙経験有	23.1	76.9	13	喫煙経験有	28.6	71.4	35
喫煙経験無	6.6	93.4	166	喫煙経験無	9.0	91.0	524

喫煙の実態は表5と6に示した。喫煙経験は中学年 7.3%、高学年 6.4%であった。喫煙をした高学年の児童を見ると、10歳から11歳あたりに集中しており、この前に喫煙防止教育が必要であると考えられる。初回喫煙を勧められた人は、中学年では家の人が 23.1% (3人)、その他 38.5% (5人) であった。高学年では家の人が 19.4% (7人)、友人 22.2% (8人)、その他 44.4% (16人) で、兄弟から勧められることが多く、高学年になると友人の介入があると考えられるが、その他のケースも多くみられた。また初回喫煙の後、再び喫煙した者は、中学年 61.5%、高学年 26.5%と中学年の方に多くみられる(表7)。

表5 喫煙経験の有無 () 内は人数 (%)

	ある	ない	n
中学年	7.3	92.7	179
高学年	6.4	93.6	561

表6 喫煙開始年齢 (人)

	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	無回答	計
中学年	0	0	1	3	4	1	1	3	0	—	—	3	13
高学年	1	1	3	2	2	1	3	2	5	10	3	3	36

表7 初回喫煙後の喫煙の有無 (人)

	吸わない	吸った	n
中学年	38.5	61.5	13
高学年	73.5	26.5	36

3. 授業前後の意識の比較

表8から表11は授業前後の意識の比較を示したものである。

表8は「大人の吸うタバコの印象」についての意識の変化である。中学年・高学年とも授業後に「よくない」という者が増え、90%を越えている。授業前は大人の喫煙にも肯定的であったが、授業後は「たとえ大人でも喫煙はよくない」と意識が変化しているがとくに高学年に顕著である。

「友人からの喫煙の勧め」に関しては、「できると思う」が、授業後に増えている。「友人に対して注意ができるか」という質問に対しても同じような傾向にあるが高学年に顕著である。「将来の自分自身の喫煙」に関しては、授業前に「吸う」者が授業後にわずかではあるが減少し、授業前「わからない」と答えていた者が、授業後に「吸わない」と変化している者が多く見られる。このように授業後にはタバコに対する種々の意識が高まり、授業効果があると考えられる。

表 8 大人のタバコへの印象 (%)

	授業前						授業後					
	自由	男はい	女はい	よくない	その他	n	自由	男はい	女はい	よくない	その他	n
中学年	5.6	3.9	1.1	84.8	4.5	178	1.8	0	0.6	97.6	0	169
高学年	19.4	2.3	0.2	73.2	4.8	557	5.9	0.8	0	93.3	0	526

表 9 友達からの喫煙のすすめに断れるか? (%)

	授業前			授業後		
	できると思う	できないと思う	n	できると思う	できないと思う	n
中学年	90.3	9.7	176	96.3	3.7	164
高学年	90.6	9.4	554	94.8	5.2	515

表 10 友人の喫煙に対する注意 (%)

	授業前			授業後		
	できる	できない	n	できる	できない	n
中学年	83.7	16.3	178	86.3	13.7	168
高学年	70.8	29.2	554	84.2	15.8	519

表 11 将来の自身の喫煙 (%)

	授業前				授業後			
	吸う	吸わない	わからない	n	吸う	吸わない	わからない	n
中学年	3.9	70.9	25.1	179	1.6	97.6	0.8	121
高学年	3.9	69.9	26.2	561	2.9	81.1	16.0	524

4. 授業の感想

授業に用いた CD-ROM について聞いたものが表 12, 13 である。

「わかりやすい」と答えた者が 90%以上と大多数を占め、おおむね好評である。

内容でとくに印象に残った項目は、中学年では「タバコを吸ったねずみ」(78.8%)、「たばこの悪者トリオ (ニコチン・タール・一酸化炭素)」(70.9%)、「タバコの体への影響」(69.3%)などをあげる者が多い。高学年では「タバコを吸うと肺がどうなるか?」(63.3)、「一酸化炭素の害」(60.7%)、「サルにタバコを吸わせる実験」(55.2%)などをあげる者が多い。中学年の「タバコを吸ったねずみ」は煙を吸ったねずみに変化する様子の映像、高学年の「一酸化炭素の害」はアニメーション、「サルにタバコを吸わせる実験」は映像と、動きのある項目に印象が強い。印象に残った画面は中学年の方が高学年に比べて多くあげており、中学年の方に印象が強く残り、効果があると推測される。

表 12 CDの感想 (%)

	わかりやすい	わかりにくい	その他	n
中学年	90.5	3.9	3.4	175
高学年	92.8	2.9	4.2	544

表 13 印象に残った画面(複数回答)
(中学年)

項目	n=179	
	%	n
人間が活動するエネルギーのもと	35.2	63
吸った空気はどうなるか	55.3	99
タバコの煙を吸ったねずみ	78.8	141
タバコの悪者トリオ	70.9	127
タバコはからだにどんな悪いことをするか?	69.3	124
外国のタバコの箱	57.5	103

その他	3.9	7
(高学年)	n=562	
項目	%	n
タバコの原料	41.5	233
タバコの歴史	32.0	180
タバコをフナの水槽に入れる実験	39.3	221
サルにタバコを吸わせる実験	55.2	310
タバコを吸うと肺がどうなるか	63.3	356
のどのがんの写真	40.9	230
一酸化炭素の害	60.7	341
受動喫煙	49.3	277
外国のタバコの箱	39.3	221
その他	9.6	54

5. 多重回答・クロス集計

個人が授業前と授業後のどう変化しているかを見たものである(表14~17)。

授業の後で授業前より意識が下がった者、意識が上がった者を示してある。「大人の喫煙に対する印象」、「喫煙の誘いを断ることができるか?」、「友人への注意ができるか?」、「将来喫煙するか?」のついでの変化を示した。中学年、高学年の学年別、男女別、喫煙経験の有無別、家庭内喫煙の有無別のほとんどに有意な差がみられ、授業後に望ましい意識に変化しており、授業の効果があつたと考えられる。ただし、「友人からの誘い」に関しては、中学年の喫煙経験群、家庭内喫煙環境、高学年の男子、5年生、喫煙経験群、「友人への注意」では中学年、高学年の喫煙経験群、「将来の喫煙」については、中学年の女子、3年生、喫煙経験群、家庭内喫煙者あり群、高学年の喫煙経験群大人の喫煙に対する印象」には意識に変化がなく授業の効果があまり見られないので、「友人からの誘いの断る方法」などの点をどう改良していくかが今後の課題である。

表14-1 大人の喫煙に対する印象・中学年(授業前後の変化) (人)

授業前 ↓	授業後の回答(男子)					授業後の回答(女子)				
	自由	男はよい	女はよい	よくない	n	自由	男はよい	女はよい	よくない	n
大人だから自由	1	0	0	3	4	0	0	0	5	5
男はよい	0	0	0	2	2	0	0	0	4	4
女はよい	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1
誰でもよくない	0	0	0	79	79	1	0	0	64	65
n	1	0	0	85	6	1	0	1	73	75
Wilcoxon (順位検定)	「大人だから自由」への変化 (n=0) 「誰でもよくない」への変化 (n=6) 変化なし (n=80) P<0.05					「大人だから自由」への変化 (n=1) 「誰でもよくない」への変化 (n=9) 変化なし (n=65) P<0.05				

(合計)

授業前 ↓	授業後の回答 (人)				
	大人だから自由	男はよい	女はよい	だれでもよくない	n
大人だから自由	2	0	0	8	10
男はよい	0	0	0	6	6
女はよい	0	0	1	1	2
だれでもよくない	1	0	0	150	151
n	3	0	1	165	169

大人の喫煙 「大人だから自由」への変化 (n=1)
「誰でもよくない」への変化 (n=15)
変化なし (n=153) wilcoxon(順位検定) P<0.01

授業前 ↓	授業後の回答(喫煙経験有り)					授業後の回答(喫煙経験無し)				
	自由	男はよい	女はよい	よくない	合計	自由	男はよい	女はよい	よくない	合計
大人だから自由	0	0	0	1	1	2	0	0	7	9
男はよい	0	0	0	1	1	0	0	0	5	5
女はよい	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
だれでもよくない	0	0	0	9	9	1	0	0	141	142

n	0	0	0	11	11	3	0	0	154	158
Wilcoxon (順位検定)	「大人だから自由」への変化 (n=0) 「誰でもよくない」への変化 (n=2) 変化なし (n=9) P > 0.05					「大人だから自由」への変化 (n=1) 「誰でもよくない」への変化 (n=9) 変化なし (n=103) P < 0.01				
	授業後の回答(家庭内喫煙者有り)					授業後の回答(家庭内喫煙者無し)				
授業前 ↓	自由	男はよい	女はよい	よくない	合計	自由	男はよい	女はよい	よくない	合計
大人だから自由	0	0	0	1	1	2	0	0	7	9
男はよい	0	0	1	4	5	0	0	0	0	0
女はよい	0	0	0	1	1	0	0	0	2	2
だれでもよくない	0	0	0	49	49	1	0	0	101	102
n	0	0	1	55	56	3	0	0	110	113
Wilcoxon (順位検定)	「大人だから自由」への変化 (n=0) 「誰でもよくない」への変化 (n=6) 変化なし (n=50) P < 0.05					「大人だから自由」への変化 (n=1) 「誰でもよくない」への変化 (n=9) 変化なし (n=103) P < 0.05				

表 14-2 大人の喫煙に対する印象・高学年 (授業前後の変化)

(人)

	授業後の回答(男子)					授業後の回答(女子)				
授業前 ↓	自由	男はよい	女はよい	よくない	n	自由	男はよい	女はよい	よくない	n
大人だから自由	21	1	0	49	71	7	0	0	26	33
男はよい	0	2	0	3	5	0	1	0	7	8
女はよい	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
誰でもよくない	3	0	0	175	178	2	0	0	288	290
n	24	3	0	228	255	9	1	0	363	389
Wilcoxon (順位検定)	「大人だから自由」への変化 (n=3) 「誰でもよくない」への変化 (n=54) 変化なし (n=198) P < 0.001					「大人だから自由」への変化 (n=0) 「誰でもよくない」への変化 (n=33) 変化なし (n=226) P < 0.001				

(合計)

	授業後の回答 (人)				
授業前 ↓	大人だから自由	男はよい	女はよい	だれでもよくない	n
大人だから自由	28	1	0	78	107
男はよい	0	3	0	10	13
女はよい	0	0	0	1	1
だれでもよくない	3	0	0	402	405
n	31	4	0	491	526

大人の喫煙 「大人だから自由」への変化 (n=3)
「誰でもよくない」への変化 (n=90)
変化なし (n=433) wilcoxon(順位検定) P < 0.001

	授業後の回答(5年生)					授業後の回答(6年生)				
授業前 ↓	自由	男はよい	女はよい	よくない	合計	自由	男はよい	女はよい	よくない	合計
大人だから自由	6	0	0	9	15	22	1	0	69	92
男はよい	0	2	0	4	6	0	1	0	6	7
女はよい	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
だれでもよくない	1	0	0	114	115	2	0	0	288	290
n	7	2	0	128	137	24	2	0	363	389
Wilcoxon (順位検定)	「大人だから自由」への変化 (n=1) 「誰でもよくない」への変化 (n=14) 変化なし (n=122) P < 0.005					「大人だから自由」への変化 (n=2) 「誰でもよくない」への変化 (n=76) 変化なし (n=311) P < 0.001				
	授業後の回答(喫煙経験有り)					授業後の回答(喫煙経験無し)				
授業前 ↓	自由	男はよい	女はよい	よくない	合計	自由	男はよい	女はよい	よくない	合計
大人だから自由	4	0	0	9	13	24	1	0	69	94
男はよい	0	0	0	1	1	0	3	0	9	12
女はよい	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
だれでもよくない	0	0	0	16	16	3	0	0	385	388
n	4	0	0	26	30	27	4	0	464	495

Wilcoxon (順位検定)	「大人だから自由」への変化 (n=0) 「誰でもよくない」への変化 (n=10) 変化なし (n=20) P < 0.005					「大人だから自由」への変化 (n=3) 「誰でもよくない」への変化 (n=80) 変化なし (n=412) P < 0.001				
授業後の回答(家庭内喫煙者有り)					授業後の回答(家庭内喫煙者無し)					
授業前 ↓	自由	男はいい	女はいい	よくない	合計	自由	男はいい	女はいい	よくない	合計
大人だから自由	5	1	0	24	30	23	0	0	54	77
男はいい	0	0	0	6	6	0	3	0	4	7
女はいい	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
だれでもよくない	1	0	0	144	145	2	0	0	257	259
n	6	1	0	174	181	25	3	0	316	344
Wilcoxon (順位検定)	「大人だから自由」への変化 (n=1) 「誰でもよくない」への変化 (n=31) 変化なし (n=149) P < 0.001					「大人だから自由」への変化 (n=2) 「誰でもよくない」への変化 (n=59) 変化なし (n=283) P < 0.001				

表 15-1 友人からの喫煙の誘いを断れるか?・中学年 (授業前後の変化)

(人)

授業後の回答(全体)			
授業前 ↓	できる	できない	合計
できる	151	0	151
できない	7	6	13
n	158	6	164
Wilcoxon (順位検定)	「断れる」への変化 (n=7) 「断れない」への変化 (n=0) 変化なし (n=157) P < 0.01		

授業後の回答(喫煙経験有り)				授業後の回答(喫煙経験無し)		
授業前 ↓	できる	できない	合計	できる	できない	合計
できる	8	1	9	148	1	149
できない	1	3	4	6	6	12
n	9	4	13	154	7	161
Wilcoxon (順位検定)	「断れる」への変化 (n=1) 「断れない」への変化 (n=1) 変化なし (n=11) P > 0.05			「断れる」への変化 (n=6) 「断れない」への変化 (n=1) 変化なし (n=154) P < 0.05		
授業後の回答(家庭内喫煙者有り)				授業後の回答(家庭内喫煙者無し)		
授業前 ↓	できる	できない	合計	できる	できない	合計
できる	102	1	103	54	1	55
できない	6	8	14	1	1	2
n	108	9	117	55	2	57
Wilcoxon (順位検定)	「断れる」への変化 (n=6) 「断れない」への変化 (n=1) 変化なし (n=110) P > 0.05			「断れる」への変化 (n=1) 「断れない」への変化 (n=1) 変化なし (n=57) P > 0.05		

表 15-2 友人からの喫煙の誘いを断れるか?・高学年 (授業前後の変化)

(人)

授業後の回答(男子)			授業後の回答(女子)			授業後の回答(全体)			
授業前 ↓	できる	できない	合計	できる	できない	合計	できる	できない	合計
できる	236	11	247	238	1	239	456	10	466
できない	13	11	24	20	5	25	32	17	49
n	249	22	271	258	6	264	488	27	515

Wilcoxon (順位検定)	「断れる」への変化 (n=13) 「断れない」への変化 (n=11) 変化なし (n=477) P > 0.05	「断れる」への変化 (n=20) 「断れない」への変化 (n=1) 変化なし (n=243) P < 0.001	「断れる」への変化 (n=32) 「断れない」への変化 (n=10) 変化なし (n=473) P < 0.005
--------------------	---	---	--

		授業後の回答(5年生)			授業後の回答(6年生)		
授業前 ↓		できる	できない	合計	できる	できない	合計
できる		131	2	133	353	10	363
できない		5	3	8	30	14	44
n		136	5	141	383	24	407
Wilcoxon (順位検定)		「断れる」への変化 (n=5) 「断れない」への変化 (n=2) 変化なし (n=134) P > 0.05			「断れる」への変化 (n=30) 「断れない」への変化 (n=10) 変化なし (n=367) P > 0.005		

		授業後の回答(喫煙経験有り)			授業後の回答(喫煙経験無し)		
授業前 ↓		できる	できない	合計	できる	できない	合計
できる		23	1	24	350	15	365
できない		4	5	9	85	67	152
n		27	6	33	435	82	517
Wilcoxon (順位検定)		「断れる」への変化 (n=4) 「断れない」への変化 (n=1) 変化なし (n=28) P > 0.05			「断れる」への変化 (n=85) 「断れない」への変化 (n=15) 変化なし (n=417) P < 0.001		
		授業後の回答(家庭内喫煙者有り)			授業後の回答(家庭内喫煙者無し)		
授業前 ↓		できる	できない	合計	できる	できない	合計
できる		308	9	317	175	3	178
できない		25	15	40	10	2	12
n		333	24	357	185	5	190
Wilcoxon (順位検定)		「断れる」への変化 (n=25) 「断れない」への変化 (n=9) 変化なし (n=323) P < 0.01			「断れる」への変化 (n=10) 「断れない」への変化 (n=3) 変化なし (n=177) P > 0.05		

表 16 友達への注意 (授業前後の変化)

(人)

		授業後の回答(中学年)			授業後の回答(高学年)		
授業前 ↓		できる	できない	n	できる	できない	n
できる		140	1	141	352	14	366
できない		5	22	27	85	68	153
n		145	23	168	437	82	519
Wilcoxon (順位検定)		「注意できる」への変化 (n=5) 「注意できない」への変化 (n=1) 変化なし (n=162) P > 0.05			「注意できる」への変化 (n=85) 「注意できない」への変化 (n=14) 変化なし (n=420) P < 0.001		

(高学年)

		授業後の回答(男子)			授業後の回答(女子)		
授業前 ↓		できる	できない	合計	できる	できない	合計
できる		175	9	184	190	5	195
できない		48	38	86	40	33	73
n		223	47	270	230	38	268

Wilcoxon (順位検定)	「注意できる」への変化 (n=48) 「注意できない」への変化 (n=9) 変化なし (n=213) P < 0.005	「注意できる」への変化 (n=40) 「注意できない」への変化 (n=5) 変化なし (n=223) P < 0.001
--------------------	---	---

	授業後の回答(5年生)			授業後の回答(6年生)		
授業前 ↓	できる	できない	合計	できる	できない	合計
できる	106	4	110	268	12	280
できない	20	14	34	69	58	127
n	126	18	144	337	70	407
Wilcoxon (順位検定)	「注意できる」への変化 (n=20) 「注意できない」への変化 (n=4) 変化なし (n=120) P < 0.005			「注意できる」への変化 (n=69) 「注意できない」への変化 (n=12) 変化なし (n=326) P < 0.001		

	授業後の回答(喫煙経験有り)			授業後の回答(喫煙経験無し)		
授業前 ↓	できる	できない	合計	できる	できない	合計
できる	23	1	24	350	15	365
できない	4	5	9	85	67	152
n	27	6	33	435	82	517
Wilcoxon (順位検定)	「注意できる」への変化 (n=4) 「注意できない」への変化 (n=1) 変化なし (n=28) p > 0.05			「注意できる」への変化 (n=85) 「注意できない」への変化 (n=15) 変化なし (n=417) P < 0.001		
	授業後の回答(家庭内喫煙者有り)			授業後の回答(家庭内喫煙者無し)		
授業前 ↓	できる	できない	合計	できる	できない	合計
できる	127	3	130	246	13	259
できない	33	27	60	56	45	101
n	160	30	190	302	58	360
Wilcoxon (順位検定)	「注意できる」への変化 (n=33) 「注意できない」への変化 (n=13) 変化なし (n=157) P < 0.001			「注意できる」への変化 (n=56) 「注意できない」への変化 (n=13) 変化なし (n=291) P < 0.001		

表.17-1 将来の喫煙・中学年(授業前後の変化) (人)

	授業後の回答(男子)				授業後の回答(女子)			
授業前 ↓	吸う	わからない	吸わない	合計	吸う	わからない	吸わない	合計
吸うと思う	3	1	2	6	0	0	1	1
わからない	0	22	8	30	0	9	5	14
吸わないと思う	1	1	55	57	1	1	61	63
n	4	24	65	93	1	10	67	78
Wilcoxon (順位検定)	「吸うと思う」への変化 (n=2) 「吸わないと思う」への変化 (n=11) 変化なし (n=80) p < 0.05				「吸うと思う」への変化 (n=2) 「吸わないと思う」への変化 (n=6) 変化なし (n=70) p > 0.05			

(合計)

	授業後の回答(全体)			
授業前 ↓	吸う	わからない	吸わない	合計
吸うと思う	2	1	3	6
わからない	0	29	13	42
吸わないと思う	2	1	118	121
n	4	31	134	169

喫煙を断れるか 「吸うと思う」への変化 (n=3)
「吸わないと思う」への変化 (n=17)
変化なし (n=149) wilcoxon(順位検定) p<0.05

授業前 ↓	授業後の回答(3年生)				授業後の回答(4年生)			
	吸う	わからない	吸わない	合計	吸う	わからない	吸わない	合計
吸うと思う	3	0	0	3	0	1	3	4
わからない	0	15	3	18	0	17	10	27
吸わないと思う	0	1	49	50	2	1	74	77
n	3	16	52	71	2	19	87	108
Wilcoxon (順位検定)	「吸うと思う」への変化 (n=1) 「吸わないと思う」への変化 (n=3) 変化なし (n=67) p>0.05				「吸うと思う」への変化 (n=3) 「吸わないと思う」への変化 (n=14) 変化なし (n=91) p<0.05			

授業前 ↓	授業後の回答(喫煙経験有り)				授業後の回答(喫煙経験無し)			
	吸う	わからない	吸わない	合計	吸う	わからない	吸わない	合計
吸うと思う	3	0	1	4	0	1	2	3
わからない	0	2	2	4	0	30	11	41
吸わないと思う	0	1	4	5	2	1	119	122
n	3	3	7	13	2	32	132	166
Wilcoxon (順位検定)	「吸うと思う」への変化 (n=1) 「吸わないと思う」への変化 (n=3) 変化なし (n=9) p>0.05				「吸うと思う」への変化 (n=3) 「吸わないと思う」への変化 (n=14) 変化なし (n=149) p<0.05			

授業前 ↓	授業後の回答(家庭内喫煙者有り)				授業後の回答(家庭内喫煙者無し)			
	吸う	わからない	吸わない	合計	吸う	わからない	吸わない	合計
吸うと思う	0	1	2	3	3	0	1	4
わからない	0	6	1	7	0	26	12	38
吸わないと思う	1	0	47	48	1	2	76	79
n	1	7	50	58	4	28	89	121
Wilcoxon (順位検定)	「吸うと思う」への変化 (n=1) 「吸わないと思う」への変化 (n=4) 変化なし (n=53) p>0.05				「吸うと思う」への変化 (n=3) 「吸わないと思う」への変化 (n=13) 変化なし (n=105) p<0.05			

表 17-2 将来の喫煙・高学年 (授業前後の変化) (人)

授業前 ↓	授業後の回答(男子)				授業後の回答(女子)			
	吸う	わからない	吸わない	合計	吸う	わからない	吸わない	合計
吸うと思う	10	8	1	19	0	2	0	2
わからない	2	45	34	81	0	29	35	64
吸わないと思う	1	4	168	173	2	1	202	205
n	13	57	203	273	2	32	237	271
Wilcoxon (順位検定)	「吸うと思う」への変化 (n=7) 「吸わないと思う」への変化 (n=43) 変化なし (n=223) p<0.001				「吸うと思う」への変化 (n=3) 「吸わないと思う」への変化 (n=37) 変化なし (n=231) p>0.001			

(合計)

授業前 ↓	授業後の回答 (全体)			合計
	吸う	わからない	吸わない	
吸うと思う	10	10	1	21
わからない	2	69	66	137
吸わないと思う	3	5	358	366
n	15	84	425	524

喫煙を断れるか 「吸うと思う」への変化 (n=10)
「吸わないと思う」への変化 (n=77)
変化なし (n=437) wilcoxon(順位検定) p<0.001

授業前 ↓	授業後の回答(5年生)				授業後の回答(6年生)			
	吸う	わからない	吸わない	合計	吸う	わからない	吸わない	合計
吸うと思う	0	0	0	0	10	10	1	21
わからない	0	23	18	41	2	52	51	105
吸わないと思う	1	0	103	104	2	6	278	286
n	1	23	121	145	14	68	330	412
Wilcoxon (順位検定)	「吸うと思う」への変化 (n=1) 「吸わないと思う」への変化 (n=18) 変化なし (n=126) p<0.005				「吸うと思う」への変化 (n=10) 「吸わないと思う」への変化 (n=62) 変化なし (n=340) p<0.001			

授業前 ↓	授業後の回答(喫煙経験有り)				授業後の回答(喫煙経験無し)			
	吸う	わからない	吸わない	合計	吸う	わからない	吸わない	合計
吸うと思う	1	1	0	2	9	9	1	19
わからない	0	7	3	10	2	68	66	136
吸わないと思う	1	1	20	22	2	5	360	367
n	2	9	23	34	13	82	427	522
Wilcoxon (順位検定)	「吸うと思う」への変化 (n=2) 「吸わないと思う」への変化 (n=4) 変化なし (n=28) p>0.05				「吸うと思う」への変化 (n=9) 「吸わないと思う」への変化 (n=76) 変化なし (n=437) p<0.001			
授業前 ↓	授業後の回答(家庭内喫煙者有り)				授業後の回答(家庭内喫煙者無し)			
	吸う	わからない	吸わない	合計	吸う	わからない	吸わない	合計
吸うと思う	10	8	1	19	0	2	0	2
わからない	1	53	51	105	1	22	17	40
吸わないと思う	2	3	236	241	1	3	145	149
n	13	64	288	365	2	27	162	191
Wilcoxon (順位検定)	「吸うと思う」への変化 (n=6) 「吸わないと思う」への変化 (n=60) 変化なし (n=299) p<0.001				「吸うと思う」への変化 (n=5) 「吸わないと思う」への変化 (n=19) 変化なし (n=167) p<0.05			

D. まとめ

以上のことから、今回作成した「喫煙防止教育」のCD-ROM教材に関しては、授業の前後では生徒一人一人に良好な変化が見られ、喫煙防止教育に充分効果があるといえる。ただしより効果を求めるために、たとえば「友人からの誘い」に対する断り方など、一部改良する点もある。また「今回は一斉の意識の底上げを目的としているが、今後は予防ではなく、喫煙者の治療(たとえば保健室等での指導など)の点についてもさらに追究していく必要があると考えられる。

E. 健康危機情報

なし。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし。

2. 学会発表

なし。

G. 知的財産の出願・登録状況

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。

(先生の説明) このアンケートは無記名です(おなまえを書く必要はありません)。集められた物は、すぐに国立保健医療科学院に送られ、コンピューターにかけられますので、個人のプライバシーは守られます。回答できないところは抜かしてけっこうです。 アンケート 1 と 2 が終わったら、封筒に入れ、封をして、提出して下さい。

児童用アンケート 1 (授業前記入)

____年生 男 女 (○でかこむ)

あてはまる番号(ばんごう) 一つに○印をつけてください。(「その他」は、自由に書いてください。)

1. あなたは今までにタバコの害(がい)について聞いたことがありますか。 1)ある 2)ない
2. 聞いた人は、だれから聞きましたか。 1)お父さんやお母さん 2)先生 3)その他
3. どんなことを聞きましたか。(自由に書いてください。)
4. あなたはタバコに興味(きょうみ)がありますか。 1) ある 2)ない
5. あなたは今までにタバコを吸ったことがありますか。 1) ある 2) ない
6. 吸ったことがある人は、はじめて吸ったのは、いつですか。 ____歳(さい)または ____年生のとき
7. だれからすすめられましたか。(だれといっしょに吸いましたか)。
1) うちの人 2) 年上の友だちやせんぱい 3) 友だち 5) その他
8. 吸ったことがある人は、その後も吸いましたか。
1) 1度も吸っていない。
2) 2回以上 (今までに、どれくらい吸いましたか。)
8. あなたの家族(かぞく)にたばこを吸う人がいますか。
1) いない
2) いる (吸っている人ぜんぶに○をつけてください)。
ア)お父さん イ)お母さん ウ)おじいさん・おばあさん エ)おにいさん・おねえさん オ)その他
9. 大人がタバコを吸うことをどう思いますか。
1) 大人だから、その人の自由。 2) 男はかまわないが、女は吸わない方がよい。
3) 女はかまわないが、男は吸わない方がよい。 4) だれでもタバコを吸うのはよくない。
5) その他
10. 20歳(さい)になる前にタバコを吸うことを、どう思いますか。(自由に書いてください。)
11. あなたはもし友達からタバコをすすめられたら、ことわることができると思いますか
1)できると思う 2)できないと思う
12. あなたは友達がタバコを吸っていたら注意することができますか
1)できると思う 2)できないと思う
13. あなたは将来タバコを吸うと思いますか
1) 吸うと思う 2) 吸わないと思う 3) わからない
14. タバコについて知りたいことがあったら、書いてください。